

《コース専門教育科目 コース専門応用科目》

科目名	学童保育研究				
担当者氏名	早川 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択必修	開講年次・開講期	4年・春期

《授業の概要》

「子どもの放課後の過ごし方」は世界的に教育課題の一つであり、多くの研究がなされている。進め方は学童保育に関する資料の内容や方法など、海外での文献や事例を研究して、「放課後子ども総合プラン」が子どもにとって健全育成に寄与できているかどうかを検討する。それには海外の保育・教育、放課後活動を研究し、子どもにとって、居心地の良い放課後を考察しながらディスカッションをして、理解を深めていく。

《授業の到達目標》

目標：児童の放課後活動が子どもにとって居場所となるために必要なシステムづくりや保護者の直面する問題解決への支援や援助できる実践力を身に付けること。
 テーマ：世界の学童保育を知り、子どもにとっての居場所となる学童保育を考察していく

《成績評価の方法》

- ・平常点（発表・グループワーク作業の成果） 50%
- ・研究課題の提出の有無、 25%
- ・定期テスト 25%

《テキスト》

授業の内容に合わせてプリントを配布します

《参考図書》

池本美香編著「子どもの放課後を考える諸外国との比較でみる学童保育」国立社会保障・人口問題研究（劉草書房）

《授業時間外学習》

現在施行されている「放課後子ども総合プラン」が子どものためになっているのかどうかを考察していくため、多くの文献や資料の収集が必要となるために「予習」で、情報収集や資料づくりをして、授業で発表する。「復習」として、発表したものをし検討し、考察していき、それをまとめる

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の総括と学童保育とは	子どもの放課後の過ごし方に注目が集まっている。学校生活では学力に、放課後は大切な人間形成のための大切な時間であると捉えている点について学習する。
2	学童保育の現状と教育課題についての研究結果	学童保育の現状は各都道府県に責任を負わされている。それは地域によりさまざまな点での特質や地域差が生じるためである。それについて学習する。
3	日本の学童保育に関する研究動向	現在の学童保育は地域の実情に合わせて学童保育活動を展開している。その活動事例を紹介しながら日本の学童保育の動向を学習する。
4	海外での学童保育の研究動向	海外の学童保育の活動は子ども自身が考案した活動を取り入れている国から学童保育のない国まであり、さまざまな活動事例を紹介し、ディスカッションして学習する。
5	学童保育の実践事例（アメリカ）	アメリカでは子どもが事件に巻き込まれたり、非行に走るの放課後であるという点から地域全体が放課後時間を大切にしている活動事例を学習する。
6	学童保育の実践事例（オーストリア）	オーストリアでは年齢の大きな子どもが年齢の小さな子どもの世話をする活動を取り入れている、そのような活動事例を紹介しながら学習する。
7	学童保育の実践事例（北欧諸国）	一番注目されているのが北欧である。学童保育活動も子ども自身が決め、実践している、それは人間として自立していくためでもあるなど事例をもとに学習していく。
8	児童支援に向けてのグループワーク	子どもにとって、どのような放課後活動や場所が子どもにとって一番の育成になるのかを検討加えながら学習していく。
9	特別な支援を要する児童の実践事例	海外での学童保育活動のなかに発達障害者に対して、どのような活動が展開されているのかを参考文献やインターネットからの情報を参考に学習していく。
10	特別な支援を要する児童の実践事例	海外での学童保育活動のなかに発達障害者に対して、どのような活動が展開されているのかを参考文献やインターネットからの情報を参考に検討していく。
11	子どもの問題解決へ向けての実践事例	子どものいろいろな問題や課題から子どもにとって、どのような学童保育が良いのかディスカッションしながら皆で考察していく
12	保護者支援への実践事例	海外では保護者が積極的に学童保育活動に関わっていく国とそうでない国があり、子どもにとって、どちらがいいのかをディスカッションしながら学習していく
13	地域へ貢献に向けての実践事例	地域との関わりが少ない国もあり、それはテロの問題もあるためであろう。そのなかでも地域活動を取り入れている国の活動事例を紹介し、地域貢献への実践を学習する
14	子どもと保護者の問題と専門機関への連携	子どもや保護者、さらに、家庭の問題などの問題解決に向けていくには専門機関との連携の必要性が生じてくる。これらの問題を提示しながら検討を加え学習していく。
15	まとめと今後の課題	今までのまとめと今後の課題を考察していく